

ドローンとAIを用いた流域単位での効率的な森林境界明確化と施業提案の概念設計

事業概要（フェーズ1）

内容

市町村で対応可能な予算と体制で、ドローン計測とAIレーザ林相区分図による技術シーズをもとに効率的な森林境界明確化と単木レベルでの森林資源情報から施業計画等を推進する。

背景・経緯

日本の森林は細分化され、所有者不明も多く、森林境界の把握・確定に係る技術は、我が国が直面する困難な社会課題への挑戦である。

狙い、波及効果

市町村の林務担当者が予算や実施体制で諦めている社会課題への挑戦である。

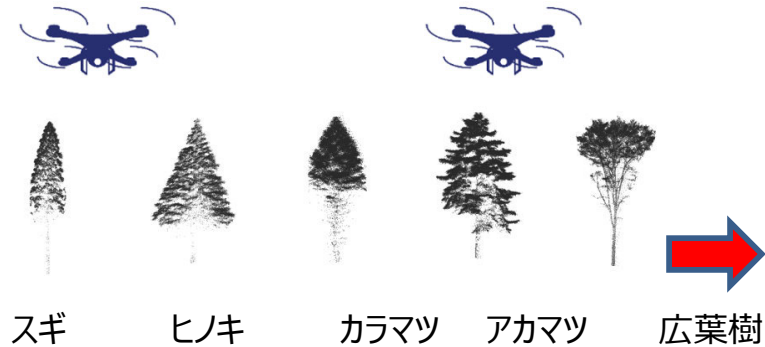
課題解決により、森林境界が明確化され、正確な森林資源情報を効率的に取得できることで、森林整備だけでなく路網整備、林業事業体の経営基盤も強化されて木材生産など全ての事業が前進して、地域林業の活性化につながる。

事業化

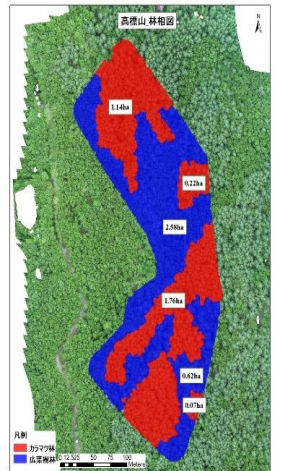
- ①市町村で実行可能な予算と実施体制
- ②森林境界調査素図の精度向上
- ③現地境界明確化ツールの開発
- ④AI森林みなし境界図の開発
- ⑤地籍調査への活用（フェーズ2）

精密林業計測株式会社

本社所在地	長野県伊那市西箕輪7200-27
設立／資本金	2017年／40,449千円
従業員数	9名（2024年7月現在）
事業内容	ドローンやレーザ計測、A I等のスマート林業の研究開発型スタートアップ



ドローン計測をもとに3Dデータから樹種区分



森林境界にAIが目安